

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成27年7月9日(2015.7.9)

【公開番号】特開2014-7477(P2014-7477A)

【公開日】平成26年1月16日(2014.1.16)

【年通号数】公開・登録公報2014-002

【出願番号】特願2012-140268(P2012-140268)

【国際特許分類】

H 04 N 1/41 (2006.01)

G 06 T 5/20 (2006.01)

H 04 N 19/00 (2014.01)

【F I】

H 04 N 1/41 Z

G 06 T 5/20 C

H 04 N 7/13 Z

【手続補正書】

【提出日】平成27年5月19日(2015.5.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

上記濃淡画像復号装置の第1態様の構成によれば、低解像度濃淡画像中の画素をLR画素としたとき、アップサンプリングにより挿入された挿入画素を、(1)該エッジマップ上の隣り合うエッジ点を連ねた輪郭を跨がず且つ該挿入画素に隣接するLR画素の加重平均値で補間し、(2)補間されていない挿入画素が残っていれば該挿入画素を、該該輪郭を跨がず且つ該挿入画素に隣接する補間された画素の加重平均値で補間するので、輪郭の形状に応じてその影響を受けずに挿入画素を補間することができるという効果を奏する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

上記濃淡画像復号装置の第2態様の構成によれば、(3)補間されていない挿入画素のそれぞれについて処理(2)を行った後に、この処理(2)で補間された画素とし、補間されていない挿入画素が無くなるまで処理(3)を繰り返すので、例えば、図12においてノード1と3に対応したLR画素の値の平均でノード2に対応した挿入画素を補間した後、この値でノード6に対応した挿入画素を補間するということを避けることができ、すなわち、さらにノード1と9に対応したLR画素の値の平均でノード5に対応した挿入画素を補間した後、ノード2とノード5の画素の値の平均でノード6に対応した挿入画素を補間することができ、これにより画素値の分布がスムーズになってノイズの発生を抑制できるという効果を奏する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 7】

図5はエッジ判定結果が格納された状態を示す。この図中のドットは、エッジ点有り(ビットが‘1’)を示しており、それぞれ図4(A)中の太線に対応している。

【手続補正4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 1 】

